

栗太志

序 凡例
附録 目錄

首卷

一

和書門	三六四六一
類	一
函號	一八
架冊	四一
冊	五

內閣文庫	和書
三六四六一	類
一	冊
一八	函
四一	架
五	冊
七四	函

地 四 一

共 五

內閣文庫	番號	和 36461
	冊數	5 (1)
	函號	174 172

174-172



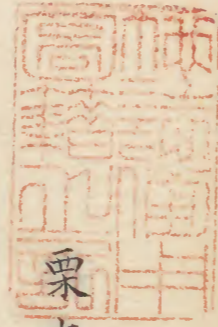
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM Kodak





粟太志序



古者吾先王之御宇內也。分國土封君長。國造縣主之號。猶
 商周侯伯之爵。藹然封建之淳風也。及中葉邦典彌文。擬唐家
 之法度。封疆之域。變為郡縣之制。分道為國。分國為郡。國猶彼
 郡猶彼縣。國司郡領之職。乃是刺史縣令之任也。夫封建之
 興郡縣。其制雖異。分割統管。至所以維持紀綱。弘宣政教。則一
 矣。要之天下之廣。非一人之治所能及也。是故邑選宰。郡選尹。
 積小化而成大治。廊廟之上。集大成。以馭四海之統一焉。如輿
 地之書。亦復然也。自小及大。循序漸進。詳邑而郡。詳郡而國。積
 小成大。集大成之。天下一統之志。於是乎成矣。吾邦有廣輿之

書風土記民部圖帳。此其集大成者也。王室多故。屢經亂離。殘
亡散軼。亦既久矣。可不憾哉。近時府志之行于世。畿內有志。淡
海有錄。雖可以觀。然其所記。詳此畧彼。摭刺遺要。固非積小成
大之書也。吾藩曩有寒川氏所著。近江輿地志畧百卷。藏之府
庫。不許行于世。伊藤東厓先生之為之序。以褒其博該。自山川
道路城邑村落。至於寺觀廟陵人物土宜。無有遺漏。實非夫府
志之比也。雖然。近江者大國。十有二郡。沃野膏壤。稅額百萬。帶
湖環山。名區勝迹。不可舉數。就一家之籍。欲覈其細。盡其蘊也。
抑難矣。予向為郡宰。欲脩管內之地志。而藩之封邑。多屬栗太
郡。因先起筆于栗太。吏務鞅掌。其事不果。栗太郡人。田中元卿。

博涉群籍。最精典故。又愛山水之趣。講學之暇。著屐曳杖。諷詠
自適。優游忘老。於是山林川澤之形。動植生產之品。隨見而識
之。莊邑官司之沿革。荒廟廢寺之故趾。訪之舊聞。稽之古典。考
據之確。亦隨而識之。若是者。十有餘年。于茲矣。筆記殆溢乎筐
篋。項揀取其所係。栗太郡者千百條。分鄉表村。輯而編之。更欲
覆勘其事。每村躬自往。叩其封疆。邑畷田數。稅額之實。又屢跋
涉。諳其勢水利之要。僻村偏境。無遺者。併錄之。校訂竄定。凡二
十卷。附錄一卷。宛然成郡志。其功勤矣。其記備矣。大禪乎實用。
誰不欣之哉。嗚呼。本州十二郡。每郡得如元卿者一人。則州志
之成。可計日而俟也。六十六州。既亦若是。而集大成之。則風土

之記。民部之帳於今可復觀。而方今昇平之象。足以示後昆也。矣。積小成大。自近及遠。則元卿其將為地志之郭隗矣。書既成。題曰粟太志。將上于府。乞予閱全編。且弁其首。元卿與予相識。往來唱酬。十年如一日。義不可辭。其志精撰。何煩是正。聊書鄙言。為之序云。

文政庚辰仲秋膳所森島撰

凡例 計十一則

- 一 是編蕪陋ナリト雖モ郡中山川村落寺社古蹟一モ檢覽ヲ經カレハ錄セス而メ識者ノ議論故老ノ口實土俗ノ俚語至ルニテ遍問ヒ覓審考勘シテ後ニ之ヲ記ス然レ
- 一 凡郷莊ノ如キハ廢絶幾ント三百年土人其村ノ郷莊ノ名ヲ知ルモノ十二一而已是故寺社ノ縁起或梁簡鯨鐘銘依テ之ヲ質正ス絶テ證據ナキ村ハ各證正キ近村地理ノ脈絡ニ依テ郷莊ノ名ヲ推シ定ム然レトモ淺識管見尚恐クハ考勘ノ失アラニトテ伏乞識者教ヲ賜ヘ
- 一 是編郷莊ヲ以テ卷ヲ分ツ或ハ唯郷ヲ稱シテ莊ヲ稱セ

- 一 或ハ唯莊ヲ呼ニテ郷ヲ呼サル村ハ又別卷トス
- 一 村名卷首ニ並ヘ列スルハ本郷也、其村名ノ下ニ録スルハ小名、或ハ枝郷或ハ元郷ナレトモ今合シテ郷村帳ニ入ラサル村ハ同レク下ニ録ス
- 一 郷並村ノ諸名、土人ノ通稱ヲ以テ和訓ヲナス遠方人尋求ルトキ土人ニ通シヤスカラニガ為ナリ鄙俚ヲ以テ笑フ事勿レ
- 一 編中公ト書スルハ我膳所君侯也、春殊ノ例ニ依ル也
- 一 侯ト君ト別書シ封内ト采地別記スルハ、万石以上以下ヲ別ツ也

- 一 神社ト書スルハ其村ノ土神ニシテ、境内壘々然タルナリ神祠ト書スルハ土神ニ非ス、境内モ無ク孤座スルモノナリ、余未タ此典ノ故ヲ聽カズト雖モ竊ニ私ニコレヲ以テ記ス
- 一 凡古蹟舊跡ト書スル其跡ノ分明ナルナリ、廢趾ト書スルハ其跡ノ變シ、田野或ハ溝池ト成ルモノナリ
- 一 凡良友ノ賜教ヲ得ル者有レハ、必其人ノ姓名ヲ書ス、人ノ美ヲ掠ムルコトヲ恐ル、也
- 一 郡中往々系譜正キ家有リ、又近世家系ヲ造テ疑シキ者モ亦少ナカラズ、真偽混雜シテ辨シ難シ故ニ槩シテ録ス

セズ、獨リ昔時高名ノ家中世落魄シ或ハ居住ヲ移轉シテ微者ト爲リ、其子孫吾家ノ系譜ヲ具ニ知ラサル者ハ余遺憾ニ堪ヘス本居ノ寺社ナトニ殘リタル系譜ヲ載スルナリ

一 寺社ノ縁起モ亦偽造多シ、撰擇シテ録スト雖モ黎丘ノ伎倆其術ニ陷ルコト無キニシモ非ス希クハ具眼ノ人猶能ク明察スヘシ

支政 辛巳春 田中貞昭識

粟太郡志 附録

中津田中貞昭編

此書郡志ナリト雖モ其本ヲ辨セサレハ未ノ解セサルモノ多シ故ニ最初ニ國ノ事大略ヲ述ル而已

近江國ノ古名、ナカツノハウミ近淡海國古事記ニ出タリ

淡海國淡海國舊事記ニ出ス

日本紀 景行天皇五十八年春二月 辛丑朔 辛亥幸近江國居

志賀是謂高穴穗宮、近江ト紀シタルハ舍人親王ノ時代ヲ以テ紀シユナルヘシ記曰 後單ニ記曰ト書スルハ

衆山東西ニ峙チ中央ニ大水ヲ湛ヘ殆ト海ノ如クニシテ水淡ニ故ニ

淡海國ト号ケ或ハ佐々浪ノ國ト云孝德紀作佐々ハイイサキ小少ノ義ナリ

湖水浪少クシテ大海ノ波ノ如クニアラサルノ謂ナリ此サ、ナミノ

蘇並ト云ヘルハ志天智天皇都ヲ大津ニ遷サセ玉ヒ湖ノ白皇都ニ近ク賀郡ノ地名ナリ

在ヲ以テ改テ近江國ト号玉フ、且ツ遠江國ニ對シテ号ケ玉フ

トモ云フ、今普通ニ江州ハ近州ト呼フ一釋虎關元亨釋書ヲ

著シ、モツハラ州ノ字ヲ用テ、是ヨリ流例トハナレリ、中佐々波マ、

ニホテルヤ、石走イシシタナトハ此國ノ冠辭ナリ中此國ノ四至タルヤ北ハ、

若狹、越前ニ交リ、南ハ伊賀、山城ニ連リ、東ハ伊勢美濃、ノ畧ニ

ツ、キ西ハ山城、若狹、丹波ノ地ニ接セリ地形南北ニ長ク東西狹シ

巽ニ至テ地势窄迫ス故ニ寒暖齊シカラス、志賀、栗太、甲賀

三郡ノ如キハ、大概京師ニ齊シフシテ寒、暖偏ナラス、蒲生、神崎、坂

田、犬上、高嶋、等ノ諸郡ハ寒氣早クシテ暖氣遲シ、伊香、淺井、ノ二

郡ハ寒氣甚タ久シク毎年十月ヨリ明年三月ニテ雪不消越前、

美濃、ノ地氣ニ似タリ其郡ハ志賀、栗太、野洲、甲賀、蒲生、神崎

愛知、犬上、坂田、淺井、伊香、高嶋、共ニ十二郡也日本地理志畧、國花

淡海録、等二十三郡ト記シ圖書編ニ近江二十雜書曰善積一郡ハ既ニ湖ト成リテ、四郡ト記シ皇明世法録ニ近州十四郡ト記ス

今ハナシ僅ニ磯ト云村残り、古郡愛シテ坂田ノ新郡ニ屬スト記

セリ無秘音ノ説ナレハ論辨ニ及ズト雖モ近世俗間ノ軍記江源

淺井三代記、織田善積郡ヲ多ク載ス、而シテ近江ノ土俗モ亦是ヲ武鑑

謂フ者多シ虚偽孟浪ノトナリ、三正史、六國史、諸實録ニ善

積郡ノ名ヲ紀スルモノヲ不見、拾芥抄ニ十二郡ト紀シ其十二郡ノ
名ノ下ニ勢多善積ト紀スルヲ以テ郡名ト、才也ヘルニヤ勢多
善積ハ郷名ニシテ源ノ順カ和名鈔ニ勢多ハ粟太郡ノ下紀シ
善積ハ高崎郡ノ下ニ紀セリ是ヲ正説トスヘシ、東鑑ノ如キハ、
中世ノ實記ナリ、是又善積ノ庄ヲ載テ善積ノ郡ヲ紀セス、是善
積郡ナキヲ明白也中畧上古ハ疆界割分ノ制モ、詳ナラス、漸ク
景行天皇、諸國ノ名ヲ立玉ヒ 成務天皇、郡ノ疆界ヲ制シ
玉ヒ 元明天皇、郡郷ノ名ヲ辨シ玉フ、又上古ハ大八洲ナリ
是ヲ割分シテ六十六國トナル、日本書紀 成務天皇、五年秋
九月諸國ニ令シテ國郡ヲ以テ造長ヲ立テ縣邑イナキニ稻置ヲ置キ

並ニ楯牙ヲ賜テ表トシ山河ヲ隔テ國ニ縣ヲ分テ、阡陌ニ隨テ
邑里ヲ定メ東西ヲ以テ日ノ縦トシ、南北ヲ以テ日ノ横トシ玉フ
云云

一國ノ中ニ郡、縣、郷、莊、村、保、條、里、等アリ
郡之事

孝徳天皇紀曰凡郡ハ以四十里為大郡、三十里以下、四里以上、
為中郡、三里為小郡云云記曰郡ノ制ハ、コハリニテ國ノ中ヲ小
割シテ何郡トシ玉フナリコホリトハ、高麗ノ語 往古ハ郡ヲモ國ト訓セニヤ
此國ニモ額田國、安國、ナト云所アリ坂田郡、野洲郡ナリ國造本紀
ニ見エタリ

縣之事

縣ト郡ト分明ナラス古書ヲ按ニ縣ヲ紀スレハ郡ヲ紀セス郡ヲ紀スレハ縣ヲ紀セス宜ナリ今世縣ノ名ナキ

記曰縣ハワカツノ義ナリ縣今詳ナラス中紀貫之カ土佐日記ニ

縣ノ四年ヨトセ五年イットセハテト云ヘリ是ヲ以テ三レハ鄙ノ國ヲサセリ

江次第除目ノ注ニ縣召ミ縣トハ郡縣ナリトアレハ郷ヲサシテ縣ト

云シナルヘシ縣ハ郷ノ古キ名ナルヘシト

古事記成務帝件曰故建内宿祢為大臣定賜大國小國之國

造亦定賜國々坂及大縣小縣之縣主也孝德紀曰割國縣ノ山

海林野池田ヲ以テ為己財爭戰云云是ニ由テ三レハ縣ハ國ノ次ニ

有テ今ノ郡ノ如シ又成務紀日本紀以國郡ヲ立造長縣邑置ヲ稻

置云云是ニ由テ三レハ郡ノ次ニアリ然レトモ郡縣ハ一ツニシテ別

名ト知ルヘシ

郷之事

郷ハ郡ノ小割ナリ源順カ類聚和名抄ニ夕トハ粟本郡物部

ハルカ 浴田木川
梨原

六十六郡ノ下ニ之ヲ記セリ郷ヲ始テ置キ玉フ何レノ

御宇ナルヤ管見ニ不見續日本紀元明天皇和銅六年五月

甲子風土記成ル其文中ニ云畿内七道ノ諸國郡郡名著云云ト

ハ近江風土記淺井郡殘篇都宇郷ノ如キナリ記曰郷ハサト

訓ス、サハ小ニシテ狭キナリ都ニ對シテ、小キ所ト云義ナリ郷ニ大
小アリ廣狹アリ一郡ニ郷ノ數イクツト定リタルモノニテハナク、五ツ
アル郡モアリ十アル郡モアリ西土ノ五州ヲ郷トスト云トハ名同フ
シテ大ニ異ナリ中畧仁壽貞觀ノ時代ニテハ頭カニ郷名ヲ建テタレトモ
其後ハ郷名ヲ唱ルモアリ唱ヘサルモノ多シ今モ唱ル例ヲイハ、粟太
郡勢多郷橋本村ノ如シ又郷ノ名唱ヘ失ナヒテ此村ニ郷名ナシナント
云フ所アリ何ソ郷名ナキ村アラニヤ、上古疆畧ヲ建テ玉ヒシ時、
村ヲ統ルニ郷ヲ以テシ郷ヲ統ルニ郡ヲ以テシ、郡ヲ統ルニ國ヲ以テ
セリ、地トシテ郷ナシト云所ハナキコナリ中畧今村民ノ居アル所ヲ
指テ郷中ト云ルハ昔ノ名殘ナリ然レトモ古ト今トハ意モカハレリ

ト見エタリ時世ノ沿革是ノミニカキラス

莊之事

庄ハ莊ノ俗字

莊ハ寒川先生實ニ能ク辨シ盡クサレタリ依テ一字ヲ不改左ニ
記ス

莊ハ郡鄉村トハ格別ニテ一郡ノ中ニ決テ、有トモ云難ク、一郷ノ中ニ
アリトモ定メ難シ、元ヨリ大小廣狹アリテ二郡ヘカ、レル莊モアリ
一郡ノニツニツモアル莊モアリ、二郷ヲ一ツニシタル莊一郷ニミタサル
莊、漸ク一二村ニ係レル莊モアリ、俗ニ云トキハ、何某氏ノ知行所、
何村其村合テ幾許村ヲ、何某ノ莊ト云ト也、西土ノ莊ノ意トハ小ク
同フシテ大ニ異ナリ韻會ニモ正字通ニモ莊ハ田舎ノ義ナリトアレハ

本邦ノ意トハ違ヘリ正字通ニ唐ノ崔邦我ニ莊三十所アリト
見エタリ是ハ田ノ一ニシテ少シク本邦ノ莊ニ似テ然レトモ、アハ
サルト多シ本邦ニテハ莊園ト云ニ人ノ讓リ典ヘシ地モアリ自分ト
買得タル地モアリ上ヨリ下シ賜ルモアリ、畢竟地ヲタマハラス、
田ヲ賜フヲ其始ハ莊園ト云ナラハセリ、今ハカハレリ、園トハ
説文ニモ菓ヲ裁ル所以ナリトアル如ク、彼ノ田ニ菓本ナトラ
ウヘシコトモアリシヨリ、莊園ノ名ハ出タリ、先王ノ法ニアラサル
ユヘ、新立ノ莊園ノ名ト云詞モアリ俗ニイヘル下屋敷畠屋敷ナ
ト云意、別墅ノ義ニモ通セルニヤ、野ハ田廬ナリト注ス一戸二十只
立ル、譬ヘハ家一軒二十人アレハ、一口ニ男ニハ田一段女ハ男ノ田ヲ三分

ニシテ其二分ナリ凡一段ノ田ニ稻五十束ヲ得ル一束ヲ春テ米五升
アリト、今義解^田令ニアリサレハ尊キハ大政大臣ヨリ卑キハ奴婢ニ至
テテ、ヲシナヘテ^{ク分田ニ}口分田^{ク分田ニ}ヲウクル其口分ノ租一反ニ二束ニ把ヲ出シ、
男ハ九十五束餘一人ノ養ヒニ給フニヨツテ上下貧富ビトシ、其
中ニ尊キハ用アール故ニ位田封田職田封戸等ノ品アリ、是古ノ王
制ナリ位田職田封戸皆一段ニ二束ニ把ノ租ヲ出ス斯ノ如クナレハ
節儉ニシテ用足レリ豊饒ニテシカモ暴富驕奢ナク國治り俗美
シ然ル王制ノ政ハ、コトニ上クルシム故ニ自政ユルニリ、位田職田封
戸モ、外家ニ讓リ寺院ニ施入スレハ位田モ職田モ^{カタク}私
領ト云ヘル名、出来又

今ハ諸大名ノ領ヲ私領ト云
幕府ノ職ニ入ルヲ御領ト云
此私領ヲ畠屋下屋敷ナト

云ナ意ニテ莊園山莊ナトノ出テ後ニハ何ノ莊彼ノ莊ナト呼リ豪富
アレハ、恣ニソノ莊モ彼莊モ買トリ一ツニモテリ彼伊藤祐親ナトカ宇
津見、久津見、河津、三ヶノ莊ノ主ナリナント、云モ彼一ツニ聚メ持タルナリ、
後世斯ノ如クナリユカニコヲ歎カハシク思召 後朱雀天皇寛徳年中
新立ノ莊園停廢ノ宣下アツテ其謂ナキ富民ノ田ヲ奪玉フ
後三條天皇延久ノ初政ニ記録所ヲ、ヲカセ玉ヒシモ此停廢ノコト
第一義ナリ 中 京極黃門定家卿ノ所領近江吉塚ノ莊ヲ二位局ニ
掠ラレ度々訴訟ニ及ヒ院ノ御教書ヲタテフ明月記ニ見エタリカ、ル
風俗トナツテ私領自ラ盛ニナリ源義家朝臣武衡ヲ撃テ勝利ヲ
得テ其勢ニノツテ東國ノ豪民ヲ麾下ニ招御家人ト号ス義朝平

治ノ逆乱モ是ヨリヒラケリ頼朝流クニテ兵ヲ勦セシモ三浦一黨、
彼豪民御家人ニテ是ヲ援ケナスカ故ナリ然レハトカク莊ハ私領ニテ
郡ニモ屬セス郷ニモ屬セスヒタスヲ、買得レハ境界ノ定モナシ亦莊ノ
主人ナク子孫ナケレハ、自ラ停廢ス又ハ其古ヘ富ヲ貯ヘ置ルモ貧ニ
ナリ、衰ルトキハ、人ニ賣典ヘナトスレハ昔トテモ定レル莊ト云ハナシ
今國々ニタテク莊ノ名アルハ其名殘ナリ莊園ハ私領ニテ國法ニモ、
カハラス、國司ノ從ハサルモノナリ莊園ノ土毛土産皆其領主ノ得物
ナリ其奉行人ヲ莊司ト云、亦直ニ其領セル主ヲモ某ノ莊司コレノ莊
司ナト呼リ畠山莊司下河邊ノ莊司ノ類ナリ頼朝志ヲ得ニ及テ因々
ニ地頭ヲ置キ遂ニ六十餘州ヲ押領ス郡ヲ莊ノ名トス元アリ伊賀風土

記ニ伊賀阿^{アハノ}盃郡此郡、始屬伊勢國、曰阿波莊、是^ニノ證據ナリ、郷ヲ
莊ノ名トスルハ倭名抄ニ上総國望^{モチタノ}陀郡ノ郷名ニ餘^{ヨリ}富^フトアリ東鑑ニ
上総國餘富莊トアリ是^ノノ證據ナリ又莊主ノ氏ヲ以テ莊トスルハ
湯^ユ淺^{アカ}玉置、芋瀨等ノ八莊司カ如キハ皆其人ノ氏ヲ以テ莊ノ名ト
スル證據ナリ莊ノ字今專ラ庄ノ字ヲ用ユ庄ハ莊ノ俗字ナリ又
萬葉集ニハサト、訓セリ今一村ノ長タル者ヲ庄屋ト云ルモ庄司ニ
從ヘル民ノ長ノ遺名ニヤ神世^{アマムラキミ}ニ天邑君ナト云ル彼庄司ニテ今ノ代
官ナト云職ナルヘシ今當國ニテ民間稱スル所ノ莊名亦舊書ノ
中ニ出タル其一二ヲ舉ル 村々莊郷ノ條下ニ載ス故ニ畧之

村之事

記曰村ハムラカルノ義訓ニシテコ、カシコニ、聚リ民家ノアル謂ナリ、
郡書要語ニ邑ハ^ユ邑ノ如シ聚會ノ稱ニシテ村ハ邑ト同シトアレハ西
土ニ云ル所ト同キ也俗問物ノ大ト細ク多キ少キ凸凹不同アツテ
一樣ナラサルヲ村アリト云弓ノ村ヲ削ルト云弓ノ村ヲ削ルト云モ
強弱アル木竹ノ肉ヲハ削リトルコト也 中其コトク村ハ一郡ノ中ニテ
田畑ノ間コ、カシコニ村々ト民家ノアル故ノ名ナリ、大凡一國ヲ小割
シテ郡ヲ建亦郡ノ中ヲ小割シテ郷ヲ亦々郷ヲ小割シテ村アル
ナリ、是古ヘノ王制ナリ、今ハ何レノ國何レノ郡何レノ村ト云テ郷
ヲ稱セサルコトハナレリ

保之事

保ハ田地ノ多少ニ関リ係ハラス戸數ヲ以テ称スルナリ而シテ字
義ヲ按スルニ相夕モ千相夕スルノ義ナルヘシ^{オス}合ノ義解戸
令曰凡戸ハ皆五家相保一人為長ト以相檢察メ勿造非違云云
又云凡戸逃走者令五保追訪云云貞昭一日舊跡尋討シテ蒲
生郡小野村ニ到リ村長ヲ訪ヒ郷名及ヒ莊名ヲ問ニ村長曰當
村古ヘヨリ郷名莊名ヲ唱ヘズ、奥津ノ保ト云村老傳ヘ云フ往昔
ハ禁裏ノ直キ百姓ナルユヘニ保ト云号アリト、故アル哉按ニ令義
解祿令ニ凡食封ハ一品八百戸、二品六百戸、三品四百戸、四品二百戸、
内親王、減羊大政大臣三千戸、左右大臣二千戸、大納言八百戸、
正一位三百戸、從一位二百六十戸、正二位二百戸、從二位一百七十戸、

正三位一百三十戸、從三位一百戸、正四位以下絶綿布各品アリ是ニ
由テ之ヲ見レハ三位以上ノ食封ハ皆戸數ナリ依テ三位以上ノ領分
ノ村ハ保ヲ以テカソヘ呼ユヘニ 禁裏ノ直百姓ト云傳ヘシモ、一理アル
カナ上件ニ説コトク保ハ今ノ所謂田地高ヲ以テ、唱ヘス戸數ヲ以テ
呼ナリ而シテ稀ニ保ト称スルモノアルハ、三位以上食封ノ名殘リナリト
知ルヘシ

記曰保ハ地割ノ名ニシテ郡郷村保トツケリ西土ノ保トハ意ハ似テ大ニ
異ナリ、明劉宗周カ保民訓要曰十戸為甲、十甲為保、十保為郷、聚
郷為坊ト云云^中保ハ四町ニテ二町四方ノ地ヲ一保ト云此保ス、イク
ラモ寄セラ一村トスルナリ村ニハ時勢ニヨツテ大小廣狭カリアレハ

保幾許ヲ一村トハ云カタシ中畧山城風土記殘編ニモ、落水保、友田保、
アリ今備前和氣郡ニ吉水ノ保、日笠ノ保アリ、俣野ニ内保村アリ
當國ニ迹保、水保、別保、南保町、北保町、中保町等ク名存セリ備
前岡山儒臣熊澤氏ノ云我國ノ通名ニテ庄屋ノ村用ニ使ヘル奴
隸ヲ保頭ホカミラト云今村ニテ組頭ト云ル者、古ヘノ保頭ニ相當ル云貞昭
曰備前國ハ大寶養老ノ制度存セルカナ、庄屋ニ隸スル者ヲ保頭
ト呼フ上件ニ所謂令義解戶令曰五家相保一人ヲ為長ト云云
是五人組ノ中ノ一人ノ頭ヲ保頭ト云ナリ寒川先生曰保頭ハ今組頭
ニ相當ルト云能ク解シ得タル哉其他ノ解ハアタラサルニ似タリ故ニ
悉ク不載

條里坪之事

條里坪ハ田地ノ積數ニ非ス田券ニ田地ノ在リ所ヲ記スル為ノ名
目也一々左ニ辨ス

條トハ田地ト田地ノ間ノ道筋ニテ畔ノ一ナリ

里トハ條ノ間ノ田地ナリ凡方六町即三十一里トス廣ケレハ其隣リ

又方六町ヲ、算ニ里トス、而シテ、サト、訓スサトニ、字アリ

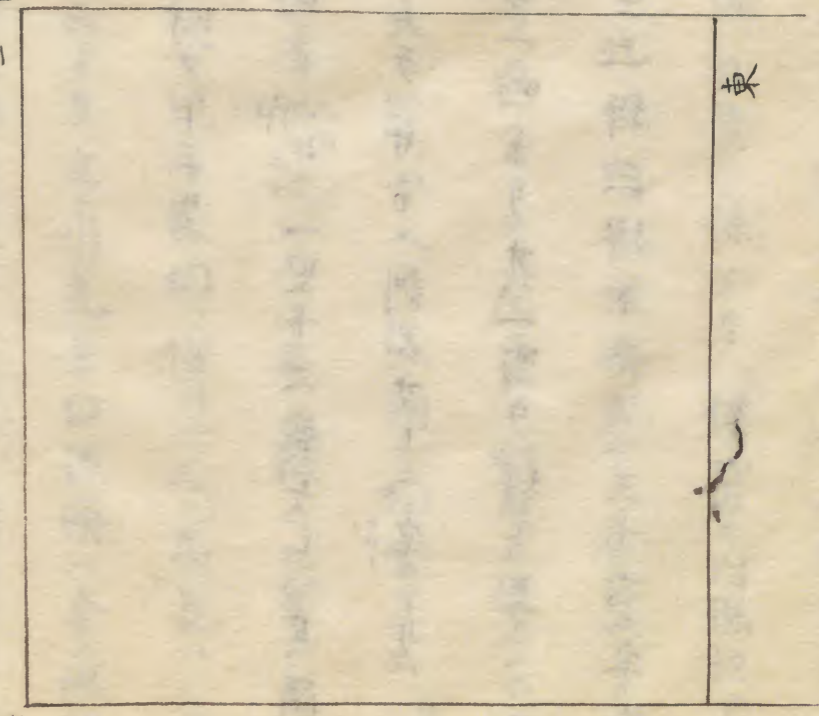
坪トハ凡里内ヲ三十六ニ割ハ方一町ナリ其一町ヲ坪ト号ク其

坪ニ番付シテ一坪ヨリ次第ニ二坪三坪トカソヘ三十六ニ至ルナリ

其圖如左

拾森抄ニ
依テ作ル

卅六坪	廿五坪	廿四坪	十三坪	十二坪	一坪	坪並里内 町ハ始良終乾
卅五坪	廿六坪	廿三坪	十四坪	十一坪	二坪	
卅四坪	廿七坪	廿二坪	十五坪	十坪	三坪	
卅三坪	廿八坪	廿一坪	十六坪	九坪	四坪	
卅二坪	廿九坪	二十坪	十七坪	八坪	五坪	
卅一坪	三十坪	十九坪	十八坪	七坪	六坪	



南

一巻

二巻

三巻

譬へハ田券ニ某村ノ田地ニ町五段譲リ渡ストキ其村ノ北ノ田地
道ヲ一條トス 二條迄ノ田地ハ則一條ナリ其ヲ里ト云

字何里ノ十一坪目ノ所ニ五段十二坪目ノ所ハ一町、十三坪目ノ
所モ一町合テ二町五段ト田券ニ記録シ買得者へツカハセハ能ク
田地ノ在リ所、知ルナリ故ニ條里坪ハ田券ノ用ノミニテ西土井
田法ノ如ク歩段町ノ積數ニハ非サル也

里ニ三義アル事

令義解戸令曰凡戸以五十戸為里延喜式民部上曰凡諸國ノ
部内ノ郡里等ノ名並ニ用ニ字、必取嘉名云云是ニ由テ之ヲ見
レハ今ノ村ト類ヲ同フス一義ナリ又道程ニ里ヲ以テ号ツク、古へ

六町ヲ一里トス 天平宝字六年奥州多賀城碑曰去京一千五百里トコレ六町一里ナリ 今ハ三十六町ヲ一里

トス按ニ其法漢土ノ井田ノ法ニ本ツク、法曰方六町ヲ為一里其

積三十六町也古ハ一方ノ長サヲ以テ一里トス今ハ其積數ヲ以テ

一里トス、是一義ナリ田券用ユル所ノ里ハ條ト條ノ間ノ田地ヲ里ト云一

村中ノ田地ノ小割ニテ里ヲサト、訓ス今ノ田地中ニ字ヲ以テ田地ノ

在リ所ヲ分ツカ如シ三銘寺古文書ノ中ニ嘉元二年道月ト云尼ノ

田券ニ山城國石原庄内名田一町五段百廿步 ことほけのりをは、云云是又

一義也

條里ハ田地ノ積數ニ用ヒサル證ノ一令義解田令曰凡位田一品八

十町二品六十町 中正一位八十町從一位七十四町云云又曰

允職分田大臣四十町云云見ツヘシ田地ノ積數町以上ノ大數ナキヲ

モシ拾芥抄ノ説ノ如クナラハ一品ハ二里八町二品ハ一里廿四町其他推シテ知ルヘシ拾芥抄ハ

漢土井田法ニ依テ記シタルモノナラシカ、井田法ニ曰百步ヲ一畝トシ九百步ヲ一井トス即チ方

一里、十里ヲ通トシ十通ヲ成トシ 十成ヲ終トシ十終ヲ同トス 皇國條里ヲ漢土井田法ヲ以テ解スルトキハ

田券ニ載ス所不得解也粟太郡ニ五條村或ハ下笠村ノ内ニ七條ト

云處アリ、其他ノ郡ニ何條ト云處多シ又七里村、十里村在リ、他邦ニ

何里村トナツクル村甚多シ、條ハ田地ノ大道筋ト解シ、里ハ田地ノ字ト

解スレハ古ノ田券皆解ヲ得ルナリ又條里數里數多クテ小村アリ少クテ

大村アルトモ疑ハナキナリ

代之事 拾芥抄田籍部注曰三百六十步為一段、七十二步為十代 トシロ中

五十代シロフ為一段ニ云或曰一段ヲ五十代イッシロト云某故ハ古昔ノ租税ハ
 束稻ナリ一段ニ允稻五十束アリ其内二束二把ヲ租税トス一束ニ
 舂米五升ヲ得ルトアリ 稻束ヲ租税トセシ證ヲイハ、延喜式主税上曰、近江同正税
 公廨各四十萬束○大學寮科一萬束○國分寺科六萬束
○中勢多橋科一萬束
 ○池溝科四萬束云云 故曰田一段ハ五十束代ト云一ナリト、因ニ云古昔稻
 束ヲ租税トスレハ、如何程ヲ一把トシ、如何程ヲ一束トスル、定法アル
 へシ、未タ管見ニ不見、但タ令ノ文ニ一束ヲ舂米五升ヲ得ルト云フ
 語ヲ標準トシテ愚考セシ一アリ、言長ケレハ斯ニ畧ス委クハ
 余カ田令贅解ニ載ス
 儲當郡二千代村チミロアリ田地ニツイテノ名ナルヘシ

粟太郡志目錄

卷第一

勢多郷

橋本村

神領村

大江村

野路村

矢倉村

此村ヨリ北四圖庄

卷第二

治田郷

大萱村

大萱新田村

呼之月輪新田

新濱村

南笠村

矢橋村

北村

穢屠

卷第三

治田郷

四圖庄

草津驛

留主川

穢屠

大路井村

澁川村

卷第四

治田郷

青地庄

追分村

部田村

岡本村

馬場村

山寺村

砥山村

岡村

城目村

今混馬場村

上
下
西村

目川村

小柿村

川田穢層

中澤村

坊袋村

川邊村

其他草津、大路井、澁川、ヲ合テ青地十五箇村ナリ、然レ

トモ元来四圖庄ナリ、中世青地駿河守掌ル、故ニ青地

庄ト云ナリ、獨三箇村ハ新庄名ヲ不唱故ニ別ニ記ス

卷第五

木川郷

山田庄

北山田村

新免村

本濱村

五條村

木川村

南山田村

馬場村

岡村

濱村 又呼不動濱

御倉村

卷第六

梨原郷

笠庄

野村

上笠村 カミカサ

川原村 カハラ

平井村 ヒライ

下笠村 シモカサ

小平井村 コヒライ

卷第七

駒井庄 コメ

集村 アツマリ

新堂村 ニシトウ

駒井澤村 コメ

郷名知レズ但穴村十里ノ邊ヲ
安良郷ト云

卷第八

大萱村 オホガヤ

穴村 アナ

十里村 シウリ

田井中村 タノナカ
穢屠 エダ

志那郷 シナ

又志那庄トモ云

中村 ナカ

吉田村 ヨシタ

志那村 シナ

卷第九

葦浦郷 アシウラ

又アシキ三ノ郷ト云

芦浦村

柿内村
檉屑

卷第十

磐村郷

法會庄

片岡村

下寺村

下物村

津田江村

上寺村

卷第十一

栗太郷

笠川村

市川原村

綾村

靈仙寺村

北中小路村

伊勢村

阿村

七里村

今混綾村

羊苺村

卷第十二

物部郷

玉岡庄

勝部村

出^テ庭^バ村

蜂^{ハチ}屋^ヤ村

野^ノ尻^シ村

浮^ウ氣^キ村

千^チ代^ジ村

卷第十三

木^キ綿^{ワタ}園^{ヅミ}郷

横^{ヨコ}江^エ村

大^{オオ}門^{カド}村

長^{ナガ}東^{トウ}村

古^コ高^{タカ}村

二^ニ町^{チヨウ}村

閻^{エノ}魔^マ堂^{ドウ}村

今^{イマ}宿^{シュク}村

卷第十四

鈎^{カカリ}庄

上^{カミ}鈎^{カカリ}村

下^{シモ}鈎^{カカリ}村

寺^ジ内^{ナイ}村

安^{ヤス}養^{ヨウ}寺^ジ村

馬^{ウマ}澤^{サハ}村

今^{イマ}混^{マシ}閻^{エノ}魔^マ堂^{ドウ}村

糠^{ヌカ}田^タ井^イ村

蓮^{レン}臺^{ダイ}寺^ジ村

市^{イチ}原^{ハラ}村

今^{イマ}混^{マシ}安^{ヤス}養^{ヨウ}寺^ジ村

卷第十五

小野郷

手原村

小野村

大橋村

卷第十六

高野郷

六地藏村

林村

小坂村

梅木村

上野村

土村

卷第十七

金勝寺庄

中村

荒張村

上山依村

今謂金勝庄

土村、过村、今里村、梁村ノ邊ヲ古ハ久保庄ト云

过村

今里村

伊勢落村

久保村 今混过村

梁村 今廢ス

井上村

東坂村

観音寺村

大鳥居村

卷第十八

田上郷

牧庄

牧村

中野村

芝原村

新免村

平野村

桐生村

田上郷

中杣庄

里村

枝村

森村

羽栗村

堂村

今村新田

石居村
織屋

卷第十九

田上郷

黒津庄

黒津村

太支村

関津村

大友村

稻津村

穢屠

是世村

今廃ス

卷第二十

田上郷

大石庄

東村

中村

龍門村

小田原村

淀村

田上郷

奥山田庄

曾束村

富川村

卷二十終

共百七箇村

枝郷十九箇村

混隣郷五箇村

廢絶三箇村

穢屠

七箇村

田

田

田

田

田

田

田

